

様式

様式		
活動内容	様式番号	帳票名
活動拠点	様式 A	ロードマップ（全国保健師長会 一部改編）
	様式 B	避難所日報(区統合版)（全国保健師長会）
	様式 F	巡回健康相談実施集計表（全国保健師長会 一部改編）
避難所巡回時	様式 B	避難所日報（全国保健師長会）
	様式 C	避難所日報記載要領（全国保健師長会）
	様式 D	巡回健康相談者一覧リスト（札幌市）
	様式 E	健康相談票（全国保健師長会）
	様式 G	健康課題チェックリスト（全国保健師長会 一部改編）
	様式 O	健康教育用リーフレット(札幌市版、厚労省等)
	様式 4-2	避難者名簿(避難所運営マニュアル)
	様式 5-1	在宅被災者・車中泊避難者名簿(避難所運営マニュアル)
地域巡回時	様式 17	要配慮者身体状況等情報シート(避難所運営マニュアル)
	様式 D	巡回健康相談者一覧表リスト（札幌市）
	様式 E	健康相談票（全国保健師長会）
	様式 G	健康課題チェックリスト（全国保健師長会 一部改編）
	様式 M	保健師継続支援ケース台帳（札幌市）
受援時	様式 O	健康教育用リーフレット(札幌市版、厚労省等)
	様式 H	基本情報及び現地の概況（全国保健師長会 一部改編）
	様式 I	全体オリエンテーション（全国保健師長会 一部改編）
	様式 J	避難所活動の説明（愛知県様式 一部改編）
	様式 K	地域巡回活動の説明（愛知県様式 一部改編）
平常時	様式 L	応援派遣保健師のみなさまへ（全国保健師長会）
	様式 M	保健師継続支援ケース台帳（札幌市）
	様式 N	わが家のひなんシート（札幌市）
	様式 O	健康教育用リーフレット(札幌市版、厚労省等)

ロードマップ(保健活動の工程表)

		災害発生																
月																		
日																		
曜日																		
災害発生後日数		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
対策期		フェーズ0	フェーズ1		フェーズ2 応急対策期(生活の安定・避難所対策中心)													
災害対策																		
関係会議																		
ライフライン	電気																	
	ガス																	
	水道																	
	電話																	
避難所数																		
避難者数(合計)																		
避難所避難者数																		
在宅避難者数																		
テント避難者数																		
車中泊者数																		
仮設住宅入居数																		
保健活動目標																		
健康課題																		
保健活動(被災者業務)	避難所																	
	在宅																	
	仮設住宅																	
	その他																	
調整連絡事項等																		
通常業務																		
参集人員																		
応援派遣保健師数																		
応援派遣保健師要請数																		
応援派遣可能な保健師数																		
巡回診療	医療救護班必要数(合計)																	
	医療																	
	歯科																	
	栄養																	
	薬剤																	
その他																		
その他団体()																		
その他団体()																		
その他団体()																		

17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
			フェーズ3 応急対策期(避難所から応急仮設住宅まで)											フェーズ4 復旧・復興対策期(応急仮設住宅対策や新しいコミュニティづくり)										

様式B(初回、随時)

1

避難所日報(避難所状況)

避難所名				避難所コード						
指定避難所以外の場合	所在地									
電話				FAX						

活動日	年	月	日	記載者(所属・職名・職種)						
-----	---	---	---	---------------	--	--	--	--	--	--

避難施設基本情報	施設定員(指定避難所)	人	避難者数(施設内)	夜: 約 人	昼: 約 人
	食事提供人数	約 人	車中泊	☐ 無・ ☐ 有(約 人)	
	避難所運営組織	☐ 有(組織: ☐ 自治組織・ ☐ 自治体・ ☐ 学校・ ☐ その他()・ ☐ 無			
	外部支援・ボランティア	☐ 有(種類(職種)・人数:)・ ☐ 無			
医療	救護所設置	☐ 有(所属:)・ ☐ 無			
	巡回診療	☐ 有(所属:)・ ☐ 無			

2

現在の状況			特記事項(課題も含む)	
ライフライン	電気	☐ 開通・ ☐ 不通	予定:	
	ガス	☐ 開通・ ☐ 不通	予定:	
	水道	☐ 開通・ ☐ 不通	予定:	
	下水道	☐ 開通・ ☐ 不通	予定:	
	飲料水	☐ 充足・ ☐ 不足	予定:	
	固定電話	☐ 開通・ ☐ 不通	予定:	
	携帯電話	☐ 開通・ ☐ 不通	予定:	
	設備状況と衛生面	スペース過密度	☐ 適度・ ☐ 過密	
プライバシーの確保		☐ 適・ ☐ 不適		
更衣室		☐ 有・ ☐ 無		
授乳室		☐ 有・ ☐ 無		
トイレ		☐ 充足(基)・ ☐ 不足		
トイレ衛生状態		☐ 良・ ☐ 不良		
手洗い場		☐ 有・ ☐ 無	手指消毒	☐ 有・ ☐ 無
トイレ照明		☐ 適・ ☐ 不適	風呂・シャワー	☐ 有・ ☐ 無
冷暖房		☐ 有・ ☐ 無	洗濯機	☐ 有・ ☐ 無
喫煙		☐ 禁煙・ ☐ 分煙・ ☐ その他		
生活環境	温度	☐ 適・ ☐ 不適	換気・湿度	☐ 適・ ☐ 不適
	土足禁止	☐ 有・ ☐ 無	清掃状況	☐ 良・ ☐ 不良
	ゴミ収積場所	☐ 有・ ☐ 無		
	粉塵	☐ 無・ ☐ 有	生活騒音	☐ 適・ ☐ 不適
	寝具乾燥対策	☐ 適・ ☐ 不適	ペット対策	☐ 適・ ☐ 不適
食事提供	主食提供回数	☐ 3回・ ☐ 2回・ ☐ 1回・ ☐ 無し		
	おかず提供回数	☐ 3回・ ☐ 2回・ ☐ 1回・ ☐ 無し		
	特別食提供	☐ 有・ ☐ 無		
	炊き出し	☐ 該当・ ☐ 無	残品処理	☐ 適・ ☐ 不適
	調理設備	☐ 有・ ☐ 無	冷蔵庫	☐ 有・ ☐ 無

(2020年版)

写真送信の場合は再度記載→

避難所コード									
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

3

避難所日報(避難者状況)

避難所名

避難所コード

活動日

年

月

日

記載者(所属・職名・職種)

◆配慮を要する者◆

	人数	うち要継続支援人数
高齢者(65歳以上)	人	人
うち75歳以上	人	人
要介護認定者	人	人
妊婦	人	人
じょく婦	人	人
乳児	人	人
幼児・児童	人	人
うち障害児・医療的ケア児	人	人

	人数	うち要継続支援人数
障害者	人	人
身体障害者	人	人
知的障害者	人	人
精神障害者	人	人
難病患者	人	人
在宅酸素療法・呼吸器療法	人	人
透析(腹膜透析含む)	人	人
アレルギー疾患	人	人

	人数	うち要継続支援人数
服薬者	人	人
降圧薬	人	人
糖尿病薬	人	人
向精神薬	人	人
他の治療薬	人	人
その他	人	人
要継続支援合計人数(実人数)		人

特記事項

◆対応すべきニーズがある者◆

*まだ解決しておらず、速やかに対応しなければならないニーズがある避難者数を記載する。

	該当	特記事項(→左の欄のその内容、アセスメント等記載)
医療ニーズのある者	□無・□有 人	
うち医薬品がない者	□無・□有(人)	

4

	該当	特記事項(→左の欄のその内容、アセスメント等記載)
保健福祉ニーズのある者	□無・□有 人	
高齢者	□無・□有(人)	
障害者・児	□無・□有(人)	
その他	□無・□有(人)	
こころのケアが必要な者	□無・□有(人)	

◆感染症・食中毒等症状がある者◆

	該当	特記事項(→左の欄のその内容、アセスメント等記載)
総数(実人数)	□無・□有 人	
発熱	□無・□有(人)	
咳・痰	□無・□有(人)	
下痢・嘔吐	□無・□有(人)	

対応内容・結果

課題/申し送り

(2020年版)

写真送信の場合は再度記載→

避難所コード

避難所日報 記載要領（2020 年版）

【避難所日報の目的】

被災自治体または支援の保健師等の保健医療福祉活動チームが、公衆衛生的立場から、①その避難所で必要な支援、②翌日以降のチームの活動方針・内容、③広域的な被災地対応、④今後予測される課題の検討等に活用する。

〈避難所活動の目的〉

避難生活によって引き起こされる健康被害を予防し、健康レベルの低下した者を早期に発見して治療や各種サービスに結び付けるとともに、健康レベルの低下をできるだけ防ぐための生活行動をとることができるよう援助する。

【記入するにあたっての留意点】

- 全ての項目を確実に聞き取って記載する必要はないが、自治体の指示を確認の上、前日までの情報等を参照し、太枠内を優先しながら、各項目の情報収集を行う。
 - 避難所の設置・運営主体、規模、被災後早期の混乱期などの要因により、避難所の情報の入手方法は一律ではないこと、避難者及び避難所運営担当者へ過度の負担をかけないことを留意し、既存情報を活用するなど以下の例を参考に多様な方法により情報収集を行う。
 - 例. ①前日までの避難所日報の記録内容
 - ②災害対策本部等の情報など入手可能な既存の各種情報
 - ③前任の支援者（チーム）、ミーティングなどの申し送り事項
 - ④避難所運営組織などにおいて把握済みの情報記録
 - ⑤避難所の常駐保健医療支援者（チーム）等からの情報 など
 - 既存の情報の転記に終始せず、避難者の生活の様子、衛生・設備環境なども含め、積極的に観察を行い、気になる方へは声をかけ、新たな課題が生じていないか確認する。
 - 「要継続支援者」、「対応すべきニーズがある者」については、迅速に確認及び必要な支援を行う。
 - 各項目に記載する際には、以下の留意事項を参考にする。なお、特記すべき内容については、右欄特記事項に記載し、欄外には記載しないよう留意する。
 - 記載内容は他地域の関係者とも共有するため、被災者の氏名等はこの日報に記載しないこととする。個別支援を要するなどの理由により、個人情報の詳細に記載・報告する必要がある場合は、「健康相談票」など自治体が指定する個人用記録様式に記載する。特記事項欄には、「その他」の内容、ニーズの種類、関係機関と調整して対応することが必要な事項、避難所の集団として検討すべき事項を中心に記載する。
- 【日報の報告】
- 内容は避難所管理者や支援者とも共有し、課題や申し送り事項は確実に引継ぎを行う。
 - 報告は、概ね毎日の活動終了後とする。必要に応じ、被災自治体の指示により、決められた時間に、口頭・Web・Fax・手渡しなどの方法で担当者に報告する。

記入する際には、以下を参考にする。

避難所日報（避難所状況）

項 目		留意事項
避難施設基本情報	避難所コード	・避難所班からの情報に基づき記載する。 ・避難所日報を写真に撮影して送信する場合には、下の記入欄にも同じ番号を記載する。
	食事提供人数	・避難所以外の居所から避難所での食事提供を受けるのみの者への提供数も含めて記載する。また、朝・昼・夕のいずれかで最も多い数を記載する。
	車中泊	・避難所敷地内及び周辺で車中泊を行っている避難者の有無と、「有」の場合は人数の概数を記載する。人数が把握できない場合は、「〇〇台」として車の台数を記載する。
	外部支援・ボランティア	・避難所に入っている支援チーム等の有無と、「有」の場合は、種類（職種等）、人数等を記載する。
設備状況と衛生面	スペース過密度	・昼間でも夜間でも、手足を伸ばして寝るスペースがあり、人が歩く通路（新聞紙見開き横の長さくらい）が確保されている場合は、「適度」と判断する。
	プライバシーの確保	・居室の間仕切り用パーティションや男女別トイレ、洗濯干し場等、プライバシーが確保されている環境であれば「適」とし、「不適」の場合は優先的な課題を特記事項に記載する。
	トイレ	・要配慮者が使用できるトイレがない場合は、その旨特記事項に記載する。
食事提供	特別食提供	・避難所で提供される一般食ではなく、離乳食、アレルギー対応食、腎臓病食、糖尿病食等配慮が必要な食事の提供の有無を記載する。課題があれば特記事項に記載する。

避難所日報（避難者状況）

◆配慮を要する者◆

○「人数」:

- ・ニーズの有無に関わらず、避難所名簿や要配慮者身体状況等情報シートに記載がある等、避難所運営担当者等が把握している人数を参考に、各項目の状態に当てはまる避難者数を記載する。複数の項目に重複して計上してよい。

○「うち要継続支援人数」:

- ・翌日の巡回チーム等が個別に状況確認・支援する必要がある避難者の人数を記載する。
- ・複数の該当する項目がある場合は、最も支援ニーズのある項目に入れる。（例えば、降圧薬を服用している高齢者で血压管理の必要な者は、「服薬者（うち降圧薬）」に記載）
- ・「◆対応すべきニーズがある者◆」の「有」人数も含む。

項目	留意事項
じょく婦	・分娩終了後母体が正常に回復するまでの期間（おおよそ6週間）における婦人
乳児	・1歳未満の児
医療的ケア児	・たんの吸引や経管栄養など医療的ケアを必要とする児
アレルギー疾患	・喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、アレルギー性鼻炎等を有する者
服薬者	・内服薬の他、外用薬、注射薬などの医薬品 ・「その他の治療薬」は、H I V、喘息、アレルギー性疾患等の治療薬
その他	・上記項目に含まれない者
要継続支援合計人数 （実人数）	・該当者がいない場合は「0」、確認できなかった場合は「－」と記載する。避難所状況の施設定員、避難者数、食事提供人数も同様である。
特記事項	・「その他」の具体的内容を記載する。

◆対応すべきニーズのある者◆

- ・まだ解決しておらず、速やかに対応しなければならないニーズのある避難者数を記載する。
- ・引き継いだ際には、優先的に確認、対応することとする。

項目	留意事項
医療ニーズのある者	・在宅酸素療法・呼吸器療法、透析（腹膜透析含む）、小児疾患、精神疾患、周産期、歯科疾患、アレルギー疾患、外傷等、医療機関でのフォローができていなく速やかに医療につなぐ必要がある者 ・ニーズの種類等を特記事項に記載 ・適切な医療を受けている、又は受けられる状況にある者、状態が安定している者は含まない
保健福祉ニーズのある者	・保健福祉等のニーズがあり、福祉避難所への移動、専門職支援チーム等に速やかにつなぐ必要がある者 ・二次避難所移送者の人数を明記する。
その他	下記の例示やその他の何らか支援が必要な者 ・小部屋等の避難スペースの確保が必要な者 ＊アトピー性皮膚炎、呼吸器疾患がある人等、持病等疾患を悪化させないために必要な者等（認知症や、発達障害は、高齢者、障害者・児に計上して特記事項に記載） ・特別な食事が必要な者 ＊食物アレルギー食、低たんぱく食、経腸栄養剤が必要な者、咀嚼嚥下困難な者等 ・退所にあたって福祉的支援が必要な者 ＊生活困窮者やDV等で自宅に戻れない者等 ・具体的内容は特記事項に記載する。
こころのケアが必要な者	・悲哀、悲嘆が強く、不眠、引きこもりや過剰行動が見られるなど、専門的な支援が必要と思われる者

◆感染症・食中毒等症状がある者◆

- ・避難所等の集団生活で発生しうる主な感染症（インフルエンザ、感染性胃腸炎、急性呼吸器感染症、結核等）症状を有する者の人数を記載する。発疹やその他の特異的な症状がみられる場合には特記事項に記載する。

◆対応内容◆

- ・避難所における必要な支援や対策を検討するため、1枚目及び2枚目について総合的評価として記載する。

項目	留意事項
対応内容・結果	・アセスメントに基づき対応した事項について、具体的事項を記載する。
課題/申し送り	・対応できなかった課題や原因等について記載し、次の支援へつなぐ。 ・現在ニーズはないものの、今後近いうちに出現すると予測されるニーズも記載する。

巡回健康相談者一覧リスト(令和 年 月 日)

担当避難所・担当地区

番号	氏名	住所／避難場所	生年月日 (年齢)	対象者 ※主なものの一つに ○を付ける	対象者(再掲)	世帯状況	健康状態等		
							病気	医療状況	自覚症状
				1 高齢者 2 妊産婦 3 乳幼児 4 障害者 5 難病患者 6 その他	1 介護認定 要支援1 2 要介護1 2 3 4 5 2 認知症 3 妊婦 4 じょく婦 5 乳児 6 幼児・児童 7 身体 8 知的 9 精神 10 人工呼吸器・在宅酸素 11 透析 12 アレルギー疾患 13 感染症 14 食中毒	1 独居 2 同居 だれと ()	1 なし 2 あり 病名 ()	1 通院治療中 2 入院・入所 3 中断 4 その他	1 あり 具体的に 2 なし
				1 高齢者 2 妊産婦 3 乳幼児 4 障害者 5 難病患者 6 その他	1 介護認定 要支援1 2 要介護1 2 3 4 5 2 認知症 3 妊婦 4 じょく婦 5 乳児 6 幼児・児童 7 身体 8 知的 9 精神 10 人工呼吸器・在宅酸素 11 透析 12 アレルギー疾患 13 感染症 14 食中毒	1 独居 2 同居 だれと ()	1 なし 2 あり 病名 ()	1 通院治療中 2 入院・入所 3 中断 4 その他	1 あり 具体的に 2 なし
				1 高齢者 2 妊産婦 3 乳幼児 4 障害者 5 難病患者 6 その他	1 介護認定 要支援1 2 要介護1 2 3 4 5 2 認知症 3 妊婦 4 じょく婦 5 乳児 6 幼児・児童 7 身体 8 知的 9 精神 10 人工呼吸器・在宅酸素 11 透析 12 アレルギー疾患 13 感染症 14 食中毒	1 独居 2 同居 だれと ()	1 なし 2 あり 病名 ()	1 通院治療中 2 入院・入所 3 中断 4 その他	1 あり 具体的に 2 なし
				1 高齢者 2 妊産婦 3 乳幼児 4 障害者 5 難病患者 6 その他	1 介護認定 要支援1 2 要介護1 2 3 4 5 2 認知症 3 妊婦 4 じょく婦 5 乳児 6 幼児・児童 7 身体 8 知的 9 精神 10 人工呼吸器・在宅酸素 11 透析 12 アレルギー疾患 13 感染症 14 食中毒	1 独居 2 同居 だれと ()	1 なし 2 あり 病名 ()	1 通院治療中 2 入院・入所 3 中断 4 その他	1 あり 具体的に 2 なし
				1 高齢者 2 妊産婦 3 乳幼児 4 障害者 5 難病患者 6 その他	1 介護認定 要支援1 2 要介護1 2 3 4 5 2 認知症 3 妊婦 4 じょく婦 5 乳児 6 幼児・児童 7 身体 8 知的 9 精神 10 人工呼吸器・在宅酸素 11 透析 12 アレルギー疾患 13 感染症 14 食中毒	1 独居 2 同居 だれと ()	1 なし 2 あり 病名 ()	1 通院治療中 2 入院・入所 3 中断 4 その他	1 あり 具体的に 2 なし

様式D(毎日)

担当者

食生活	飲酒	住宅状況	車中泊 1泊以上	居場所		支援方針	支援の内容	支援概要・備考
				日中	夜間			
1 毎食 2 欠食 いつ (朝 昼 夜) 量 () 配慮食 (要 不要)	1 飲まない 2 時々 3 毎日 いつ (朝 昼 夜) 量 ()	1 赤 2 黄 3 青 4 判定未 5 不明	1 あり 2 なし	1 自宅 2 避難所 3 車中 4 その他 ()	1 自宅 2 避難所 3 車中 4 その他 ()	1 119番通報 2 医療救護班 3 二次避難所移送 4 避難所福祉スペース 5 継続巡回 6 問題なし ※5 継続巡回となった者は様式E健康相談票を作成	★対応 1 病気・療養 2 介護 3 こころ 4 食事 5 口腔ケア 6 感染症対策 7 その他 () ★引継ぎ可否 →医療救護班 →二次避難所 →精神保健福祉 センター →栄養チーム →歯科チーム →感染症予防担当	
1 毎食 2 欠食 いつ (朝 昼 夜) 量 () 配慮食 (要 不要)	1 飲まない 2 時々 3 毎日 いつ (朝 昼 夜) 量 ()	1 赤 2 黄 3 青 4 判定未 5 不明	1 あり 2 なし	1 自宅 2 避難所 3 車中 4 その他 ()	1 自宅 2 避難所 3 車中 4 その他 ()	1 119番通報 2 医療救護班 3 二次避難所移送 4 避難所福祉スペース 5 継続巡回 6 問題なし ※5 継続巡回となった者は様式E健康相談票を作成	★対応 1 病気・療養 2 介護 3 こころ 4 食事 5 口腔ケア 6 感染症対策 7 その他 () ★引継ぎ可否 →医療救護班 →二次避難所 →精神保健福祉 センター →栄養チーム →歯科チーム →感染症予防担当	
1 毎食 2 欠食 いつ (朝 昼 夜) 量 () 配慮食 (要 不要)	1 飲まない 2 時々 3 毎日 いつ (朝 昼 夜) 量 ()	1 赤 2 黄 3 青 4 判定未 5 不明	1 あり 2 なし	1 自宅 2 避難所 3 車中 4 その他 ()	1 自宅 2 避難所 3 車中 4 その他 ()	1 119番通報 2 医療救護班 3 二次避難所移送 4 避難所福祉スペース 5 継続巡回 6 問題なし ※5 継続巡回となった者は様式E健康相談票を作成	★対応 1 病気・療養 2 介護 3 こころ 4 食事 5 口腔ケア 6 感染症対策 7 その他 () ★引継ぎ可否 →医療救護班 →二次避難所 →精神保健福祉 センター →栄養チーム →歯科チーム →感染症予防担当	
1 毎食 2 欠食 いつ (朝 昼 夜) 量 () 配慮食 (要 不要)	1 飲まない 2 時々 3 毎日 いつ (朝 昼 夜) 量 ()	1 赤 2 黄 3 青 4 判定未 5 不明	1 あり 2 なし	1 自宅 2 避難所 3 車中 4 その他 ()	1 自宅 2 避難所 3 車中 4 その他 ()	1 119番通報 2 医療救護班 3 二次避難所移送 4 避難所福祉スペース 5 継続巡回 6 問題なし ※5 継続巡回となった者は様式E健康相談票を作成	★対応 1 病気・療養 2 介護 3 こころ 4 食事 5 口腔ケア 6 感染症対策 7 その他 () ★引継ぎ可否 →医療救護班 →二次避難所 →精神保健福祉 センター →栄養チーム →歯科チーム →感染症予防担当	
1 毎食 2 欠食 いつ (朝 昼 夜) 量 () 配慮食 (要 不要)	1 飲まない 2 時々 3 毎日 いつ (朝 昼 夜) 量 ()	1 赤 2 黄 3 青 4 判定未 5 不明	1 あり 2 なし	1 自宅 2 避難所 3 車中 4 その他 ()	1 自宅 2 避難所 3 車中 4 その他 ()	1 119番通報 2 医療救護班 3 二次避難所移送 4 避難所福祉スペース 5 継続巡回 6 問題なし ※5 継続巡回となった者は様式E健康相談票を作成	★対応 1 病気・療養 2 介護 3 こころ 4 食事 5 口腔ケア 6 感染症対策 7 その他 () ★引継ぎ可否 →医療救護班 →二次避難所 →精神保健福祉 センター →栄養チーム →歯科チーム →感染症予防担当	
1 毎食 2 欠食 いつ (朝 昼 夜) 量 () 配慮食 (要 不要)	1 飲まない 2 時々 3 毎日 いつ (朝 昼 夜) 量 ()	1 赤 2 黄 3 青 4 判定未 5 不明	1 あり 2 なし	1 自宅 2 避難所 3 車中 4 その他 ()	1 自宅 2 避難所 3 車中 4 その他 ()	1 119番通報 2 医療救護班 3 二次避難所移送 4 避難所福祉スペース 5 継続巡回 6 問題なし ※5 継続巡回となった者は様式E健康相談票を作成	★対応 1 病気・療養 2 介護 3 こころ 4 食事 5 口腔ケア 6 感染症対策 7 その他 () ★引継ぎ可否 →医療救護班 →二次避難所 →精神保健福祉 センター →栄養チーム →歯科チーム →感染症予防担当	

様式E(初回・随時)

健康相談票		方法		対象者		担当者(自治体名)			
初回・()回		・面接・訪問		乳児 幼児		相談日 年 月 日			
保管先		・電話		妊婦 産婦 高齢者		時間			
		・その他		障害者		場所			
		()		その他()					
基本的な状況	氏名(フリガナ)		性別	生年月日			年齢		
			男・女	M・T・S・H 年 月 日			歳		
	被災前住所		連絡先		避難場所				
	①現住所		連絡先		自宅 自宅外:車・テント・避難所 (避難所名:)				
	②新住所		連絡先		家族状況				
	情報源、把握の契機/相談者がいる場合、本人との関係・連絡先		独居・高齢者独居・高齢者のみ世帯 家族問題あり()						
	被災の状況		制度の利用状況						
	家に帰れない理由 自宅倒壊・ライフライン不通・避難勧告・精神的要因(恐怖など) その他()		・介護保険(介護度) ・身体障害者手帳(級) ・療育手帳(級) ・精神保健福祉手帳(級) ・その他()						
身体的・精神的な状況	既往歴	現在治療中の病気	内服薬						
	高血圧、脳血管疾患、高脂血症、糖尿病、心疾患、肝疾患、腎疾患、精神疾患、結核、難病、アレルギー、その他()	高血圧、高脂血症、糖尿病、心疾患、肝疾患、腎疾患、精神疾患、結核、難病、アレルギー、その他()	なし・あり(中断・継続) 内服薬名()						
			医療器材・器具			医療機関名			
			在宅酸素・人工透析 その他()			被災前: 被災後:			
			食事制限			血圧測定値			
			なし			最高血圧:			
			あり 内容()			最低血圧:			
			水分()						
現在の状態(自覚症状ごとに発症時期・持続・転帰を記載)				具体的自覚症状(参考)					
				①頭痛・頭重②不眠③倦怠感④吐き気⑤めまい⑥動悸・息切れ⑦肩こり⑧目の症状⑨咽頭の症状⑩発熱⑪便秘/下痢⑫食欲⑬体重減少⑭精神運動減退/空虚感/不満足/決断力低下/焦燥感/ゆううつ/精神運動興奮/希望喪失/悲哀感⑮その他					
日常生活の状況		食事	保清	衣類の着脱	排泄	移動	意思疎通	判断力・記憶	その他
	自立								
	一部介助								
	全介助								
個別相談活動	備考 必要器具など								
	相談内容				支援内容				
					今後の支援方針 解決 継続				

健康相談票経過用紙

様式E(健康観察時毎回)

健康相談票 経過用紙		避難場所名	氏名	No.
月 日	相談方法	相談内容	指導内容(今後の計画を含む)	担当者

巡回健康相談実施集計表

様式F(毎日)

巡回相談状況																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
年月日○	対応場所	箇所数	件数		種 別																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
			実	延	高齢者	要介護者	妊産婦	乳幼児	障害者	難病患者	在宅酸素・呼吸器	透析	アレルギー疾患	感染症・食中毒	その他																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													

提出時期:毎日

提出先:保健活動対策本部

健康課題チェックリスト

【二次健康被害の予防】

様式G(健康観察時)

	チェック項目	症状	保健衛生部局・保健所本部における対策の立案	看護ケア・保健指導
深部静脈血栓症（DVT）	☐ 車中泊	・下肢、膝の腫脹、違和感、むくみ、皮膚表面の静脈が顕著	・被災当日から対策の実施が必要。 ・車中泊をしている人に深部静脈血栓症の発生の危険性を伝えるよう、警察・地域役員等の協力を得てリーフレットを配布。	・同じ姿勢を取り続けない、圧迫する体位を避ける。 ・ゆったりとした服装を促す。
	☐ 避難所等が狭く寝返りを打ち難い(目安:1人当たり3.5㎡未満)	・下腿や大腿の疼痛(主に片側)下肢の変色(立位時に赤紫色)	・避難所等が過密な場合は、別の避難所への移動等の全体調整を災害対策本部に依頼。	・水分を制限せず十分に摂取する。
	☐ 避難所等で硬い床の上に寝ている(毛布のみ等)		・十分な飲料水が配布されていない場合は災害対策本部に報告し、飲料水を確保。	・避難所等で足首を回す運動などを指導し、定期的に行えるよう避難所運営者などと調整する。
	☐ 飲料水が不十分(目安:1日1人当たり3L以下)	・胸痛、呼吸苦 →肺塞栓のおそれ(重症)	・災害支援物資として弾性靴下の提供を依頼。	・胸痛や下肢の変色(立位時に赤紫色)、腫脹、疼痛がある場合は早めに医療機関へつなげる。
	☐ 運動量が十分でない状態			
低体温症	☐ 風水害や津波で衣服が濡れたまま、着替えができない	・体内温度が35℃以下	・屋外待避や救助を待つ場合、避難所や救助所で十分な暖房がなく寒冷環境にいる人々に対し、関係職員が低体温症の適切な対応ができるよう災害対策本部会議等を通じて周知する。	・低体温症は個人差があるため、体温測定のみには頼らず「震えがあるか」「意識がしつかりしていないか」を常時確認する。
	☐ 避難している場所が寒冷で暖が取れない	(一般の体温計で計測不能な状態)		
	☐ 高齢者や小児		・保温・加温のための着替えや毛布、敷物、ビニール素材、暖房器具など必要な資材を災害対策本部に依頼する。	・震えが始まったら、①冷氣からの隔離、②カロリーと水分の補給、③保温・加温(帽子やマフラーや毛布に包まる等)を行う。
	☐ 栄養が十分取れない	・震え、手足の冷え		
	☐ 疲労している			
	☐ 飲料水が不十分(目安:1日1人当たり3L以下)	・見当識障害、ふらつき、体が温まらないのに震えが止まる (悪化のサイン) →重症	・飲料水やカロリー補給が不足する場合は、災害対策本部に報告し、十分なペットボトル水や給水を確保する。	・悪化のサイン(呼吸・意識・見当識障害やふらつき)があったら、①医療機関へ搬送、②不整脈が起らないようゆっくり臥床させる、③ベットボートルに湯を入れた簡易湯たんぽ等で脇の下・股の付け根・首の回りを加温、④むせないようなら、カロリーのある飲み物を飲ませる。
	☐ 糖尿病や脳梗塞など神経系の疾患がある			
	☐ 怪我をしている			

	チェック項目	症状	保健衛生部局・保健所本部における対策の立案	看護ケア・保健指導
熱中症	☐ 気温が高い ☐ 風が弱い ☐ 湿度が高い ☐ 急に熱くなった ☐ 避難所の不適な環境 (※WBG値も参考) ☐ 高齢者や乳幼児 ☐ 下痢や発熱の有症状者、心臓病や高血圧症の有病者、抗うつ剤や睡眠薬などの服用者、以前熱中症に罹患した者か ※WBG値 気温、湿度、輻射(放射)熱から算出される暑さの指数 環境省ホームページ(熱中症予防サイト)に、観測地と予測値の掲載有	・めまい、立ちくらみ、手足のしびれ 筋肉のこむら返り、気分不良 ・頭痛、吐き気、 倦怠感、虚脱感、 いつもと様子が違う ・乳幼児の場合は、唇の乾き、オムツの状態(尿の回数減少)に注意 ・返事がおかしい、 意識消失、けいれん、からだが熱い → 重症	・避難所等の室内環境を確認し、扇風機、エアコン等の設置等に対策本部へ依頼し環境整備を図る。 ・被災者に対し、熱中症の危険性や予防、症状、対応等について、避難所でのリーフレットの配布やSNSの活用などで広く周知する。 ・十分な飲料水、塩分、経口補水液などの確保を災害対策本部に依頼する。	【予防】 ①水分補給 ・高齢者や子ども、持病のある人に注意する。 ・のどが渇いていなくても水分・塩分補給を促す。(目安:水や麦茶1Lあたり塩分1～2個分の塩分) ②暑さを避ける ・扇風機やエアコンの活用 ・日陰の利用、帽子や日傘の着用。日中の外出を控える。 ③体の蓄熱を避ける ・通気性の良い、吸湿性・速乾性の衣服を着用する。 ・保冷剤、氷、冷たいタオル、水浴等で体を冷やす。 ※屋外作業時:作業前に500ml以上の水分補給を促し、作業中も30分毎の休憩、1時間当たり500～1000mlの水分補給を勧める。十分な休養と朝食をとり、体調が優れない時は屋外作業を見合わせる。 【熱中症が疑われる者への対応】 ・涼しい場所へ避難させ、衣服をゆるめ体を冷やし、医療機関受診を促す。 ・自分で水が飲めない、意識がない場合はすぐに救急車を呼ぶ。
一酸化炭素中毒	☐ 密閉した室内で暖房器具の使用をしている ☐ 狭い室内(車内)で、燃料を燃やす器具(発電機、灯油、練炭)を使用している ☐ 屋外でも開いた窓やドア、換気口の近くで燃料を燃やす器具を使用している ☐ 窓、換気設備が不十分	・初期症状:頭痛、吐き気、気分不快感、めまい、判断力低下、手足のしびれ ・意識障害、視覚障害、こん睡状態 →重症	・一酸化炭素は無味無臭であり、低濃度で重症化する危険があるため、車中泊や自宅、車庫などに避難している者に対し、灯油やガソリン、練炭等を使用した暖房器具の使用について、関係職員が一酸化炭素中毒予防の適切な対応がとれるよう災害対策本部会議等を通じて周知する。 ・車中泊では、他の車から出た排気ガスが入り込み一酸化炭素中毒を起こす危険もあるので、車間距離を十分にとって停車するよう計画する。	・狭い場所での灯油やガソリン、練炭等を使用した器具の使用について、使用場所、換気に充分注意喚起する。

	チェック項目	症状	保健衛生部局・保健所本部における対策の立案	看護ケア・保健指導
粉じん	☐ 水害、地震による建物被害、津波など粉じんが発生しやすい災害である ☐ 土足禁止が徹底できていない ☐ 入浴や洗濯ができていない ☐ 倒壊した家屋の片付けや掃除など、粉じんが舞う環境でマスクなしまたは簡易なマスクで作業している ☐ 作業後、咳、痰、息切れが続いている	・初期は自覚症状がない ・咳、痰、息切れ 進行すると呼吸困難、動悸、心臓の状態の悪化(肺性心) → 重症	・「じん肺」を根治する方法はないため、予防処置が非常に重要である。 ・家屋の片付け等で粉じん対策が必要な場合には、適切な防塵マスクや保護具を使用できるように必要物品を調達する。アスベストを含んだ瓦礫には近づかない対策をする。 ・家屋の片付けや掃除等で作業してきた避難者が生活空間へ粉じんを持ち込まないように、着替えは居住区域外で行い、使用した作業着は持ち込まない対策を立てる。	① 粉じんの発生を抑える ・作業前に水を散布し、粉状のものは水で濡らす。 ② 粉じんの除去 ・廃棄装置、除じん装置があれば使用 ③ 室内作業時は十分に換気する。 ④ 粉じんの吸入を防ぐ ・マスクは正しく着用する。 ・使い捨て式防じんマスクやN95マスクなどの使用。入手できない場合や粉じんに長くばく露されないなら、花粉防止マスクの活用も可。 ・粉じんが付着しにくい服装を勧める。 (毛の繊維や装飾の多い服は避ける) ・作業後は十分にうがいをする。 ・避難所など生活空間に粉じんを持ち込まないように、土足厳禁を徹底する。
便秘	☐ トイレの設置状況(数不足、女性や高齢者・障がい者等が使いにくい) ☐ 排尿・排便を我慢 ☐ 食事内容の偏り、摂取量が少ない ☐ 水分補給不足、水分制限 ☐ 不規則的な生活 ☐ 活動量の低下(運動不足) ☐ 睡眠の不足	・便が出ない ・お腹が張って苦しい ・食欲の低下	・十分なトイレ数の確保と高齢者や障がい者、妊産婦、子ども等が使いやすいトイレ環境の整備を対策本部へ提案する。(女性用は男性用の倍以上が必要・照明や安全確保も重要) ・野菜等食物繊維の摂取が低下しないよう、避難所で提供する食事について対策本部へ提案する。 ・便秘の対処法や便秘薬の処方について相談できる体制を整備する。 ・便秘の対応について啓発リーフレットの配布やSNS等を活用して周知する。	・規則正しい生活を促し、便意を我慢しない自然な排便リズムをつくる。 ・ウォーキングや体操、ストレッチなどを実施し、運動不足にならないようにする。 ・水分を十分摂取する。 ・食物繊維が不足しないよう野菜の摂取に努める。 ・お腹が張って苦しく、数日間便が出ない場合は医療機関受診を勧める。

	チェック項目	症状	保健衛生部局・保健所本部における対策の立案	看護ケア・保健指導
慢性疾患	☐ 糖尿病（インシュリンを使用） ☐ 慢性腎不全・人工透析中 ☐ 高血圧、喘息、てんかん、統合失調症、難病など治療中 ☐ 結核で服薬中 ☐ HIV感染症で服薬中 ☐ 処方薬がない、または残薬が少ない ☐ 医療機関を受診することができない状態 ☐ 食事の偏り、栄養不十分 ☐ 睡眠が十分に取れていない ☐ 疲労している	※症状は省略	被災地の医療機関の診療状況把握と周知 - 人工透析の必要者やインシュリン治療中の糖尿病患者が早急に医療機関を受診できる体制を医師会等と連携し整備する。 - 備蓄薬、流通備蓄による薬の調達、薬局・薬剤師会との調整。 - 避難所の巡回診療や救護所開設を行い、避難者が診療や投薬を受けられる体制を整備する。 栄養が不十分であったり偏ったりすると慢性疾患の悪化につながるため、避難所での食事内容について対策本部へ提案する。 十分な睡眠や休息がとれ、快適に避難所生活が送れるような居住環境整備について対策本部へ提案する。 被災者の健康状態をチェックし、慢性疾患を悪化させない方法を学ぶ機会や相談できる機会をつくる。	- インシュリンを必要とする糖尿病患者や人工透析を必要とする慢性腎不全に医療機関受診を促す。 - 高血圧、喘息、てんかん、統合失調症、難病、結核、HIV感染症等の慢性疾患、要継続治療患者の治療を中断しないよう、医師・保健師・看護師等への相談を促す。 - 受診が困難な状況である場合は医療につなげるよう調整が必要である。 - 処方薬の内服や栄養管理が継続しているか確認し必要な治療が継続できるよう、被災地の医療の現状に合わせて、かかりつけ医や関係機関と連携して助言指導を行う。 - 本人が自分の治療状況を伝えることができない場合は、家族や介護者と離れることも想定し、処方薬と栄養管理の内容が書かれたメモを手渡すなど具体的な支援を行う。
生活不活発病	☐ 後期高齢者が多い ☐ 布団が敷き放し ☐ 日中に体を動かす機会が少ない ☐ 災害前と現在の体の動かすことの変化（資料「生活不活発病チェックリスト」参照）、動作の緩慢さ ☐ 心身の疲労（睡眠や休息の状態） ☐ 自身の役割や社会参加の機会がない ☐ 意欲の低下がある（不安や心配）	- 心身の疲労の蓄積や生活の不活発な状態等による全身のあらゆる心身機能の低下、特に高齢者は筋力低下、関節の硬化により徐々に動けなくなる。 - 気分が沈み、うつ状態や知的活動の低下などをきたす。	- 避難者が自ら役割を持って生活できる運営体制を避難所運営者や対策本部に提案する。 - 高齢者が一人で動けるよう、避難所の生活環境整備を避難所運営者や対策本部に提案する。 - 避難所や応急仮設住宅を巡回して、医師・保健師・看護師等によるハイリスク者のチェックや相談体制を整備する。 - 避難所や応急仮設住宅等で、社会参加ができる機会を創設（サロンやカフェ、体操や健康教室等） - 生活不活発病の啓発を、リーフレット配布やSNS等を活用して実施。	- 日常生活で役割を持つこと、身の回りのことは自分で行う、周りの人と話をするを促し、体操などの運動を勧める。 - 散歩やスポーツや趣味の活動など楽しみを持ち、サロンやカフェなどと触れ合う機会への参加を促す。 - 杖や福祉用具などを活用して、居室内を安全に一人で動ける環境を整える。

・生活不活発病の情報・厚生労働省 (https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-106000000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000122331.pdf)

【感染症対策・生活環境衛生対策】※区保健医療班の感染症予防担当や区生活衛生係と連携する。

	チェック項目	保健衛生部局・保健所本部における対策の立案	看護ケア・保健指導
共通リスク	☐ 避難者が過密である ☐ 換気が不十分である ☐ 十分な手洗いができない ☐ うがいができない ☐ 生活用水が不足している ☐ 清掃できない ☐ 土足である ☐ ペットが避難所内に同居している	・定期的に室内を喚起できるよう避難所管理者等と調整する。 ・手指消毒薬の設置を災害対策本部に要請する。 ・感染者が一時的に休養できる部屋を確保する。ただし、回復してもとれないという感情を本人や周囲の人がもつと回復してもとれないなどの事態を招く可能性があり、慎重な説明が必要である。 ・発生動向を踏まえ、予防啓発用の媒体を用いて、住民に広報・周知する。 ・管内医療機関、保健医療活動チームへの情報提供を行う。 ・イベントサーベランスの徹底を避難所管理者、保健医療活動チーム等へ指示する。	・流水が得られない場合の手指消毒薬の設置、正しい手洗い方法の指導を行う。 ・避難所等における咳や発熱(37.5度以上)の有症状者数などの経時的変化を観察する。 ・避難所等における下痢や嘔吐等の有症状者数などの経時的変化を観察する。
インフルエンザ	☐ 室温が低い ☐ 乾燥している ☐ 咳や発熱(37.5度以上)の有症状者がいる ☐ 直前の感染症サーベイランス情報によるとインフルエンザが流行している ☐ 近隣避難所等でインフルエンザが発生した ☐ フクチン接種率が低い	・加湿器、マスクなどを災害対策本部に要請する。 ・専用のスペースを確保し、可能な限り個室にするとともに、専用のトイレを確保する。	・マスクの配布及び正しい装着・使用方法の指導を行う。
感染性胃腸炎	☐ 室温・気温が高い ☐ トイレが不衛生な状況である ☐ 避難所内で下痢・嘔吐の有症状者がいる ☐ 直前の感染症サーベイランス情報によると感染性胃腸炎が流行している	・嘔吐処理に必要な物品を災害対策本部に要請する。 ・嘔吐や下痢で汚染された衣服はすぐに交換し、必要な衣服等を災害対策本部に要請する。	・正しい嘔吐処理及び下痢処理の方法を指導する。(マスク、手袋を着用し新聞紙等でおさ取り、次亜塩素酸など塩素系消毒薬で消毒する。) ・嘔吐処理セットや消毒薬を配布する。 ・調理従事者、炊き出し、ボランティアに対する指導を行う。(加熱調理、手指衛生、健康管理など) ・周囲の環境(トイレ周り、ドアノブ等)を次亜塩素酸ナトリウムで消毒する。
破傷風	☐ 室温が高く湿気が多い ☐ 受傷している又は津波や水害に巻き込まれた(傷口に土、砂、糞便などが触れた) ☐ 創の深さが1cm以上ある ☐ 適切な創傷治療を受けられず6時間以上が経過している ☐ 感染(怪我をした日)の3～21日後、開口障害、構音障害等の症状がある ☐ 破傷風トキシノイドワクチン接種率が低い	・破傷風発症予防についてポスター、チラシを使用し、住民や瓦礫処理を行うボランティアを含む作業従事者に周知する。	・瓦礫の撤去や復旧作業に従事する場合は、可能な限り事前の破傷風トキシノイド接種を推奨するとともに受信可能な医療機関の情報提供を行う。 ・適切な創傷手当を指導する。(受傷後はすぐに水で洗い、できる限り異物を除去する等) ・毒素が全身に広がると重症化するため、開口障害等の症状に気づいたら経過観察を行う、すぐ医療機関を受診させる。
結核	☐ 咳が2週間以上続いているが、鼻水やのどの痛みはない ☐ 痰、胸痛、倦怠感、微熱、寝汗、息苦しさ、食欲不振、体重減少がある ☐ 結核治療中で内服している ☐ 高齢者・結核の既往・糖尿病・免疫抑制剤投与者・低栄養状態・胃切除後等リスクが高い ☐ 最近(最近)は結核検診を受けていない ☐ 検診で要精密検査の指示を受けていたが受診していない ☐ 被災地域の結核罹患率が全国より高い ☐ BCG未接種の乳幼児がいる	・治療中や治療中断している人の情報を入手する。 ・結核が強く疑われる確定診断がつくまで数日かかる場合や、入院までの日数を要する場合は空気を共有しない個室に移す。 ・結核と診断したら医師は管轄保健所に発生届を出し、保健所は感染症法に基づく疫学調査、接触者健診を実施するため、それらの調査等の協力を対象者へ求める。 ・呼吸器科への受診勧奨をした対象者が受診に至ったかの確認体制を構築する。 ・必要に応じて患者が生活していた避難所住民に対する集団指導等の企画、保健所への依頼を行う。	・咳がある場合のマスク着用、咳エチケットの指導を行う。 ・咳が続く場合、胸部レントゲン検査や喀痰検査等が実施できる呼吸器科への受診勧奨を行う。 ・受診した場合、結果報告の必要性について対象者に説明する。

	チェック項目	保健衛生部局・保健所本部における対策の立案	保健指導
生活環境の整備	(生活スペース) ☐ 避難所内を移動するのに、暗くて床面がはつきり見えない ☐ 簡易ベッド、段ボール仕様ベッド等がない ☐ 家族単位の仕切り等がない ☐ 季節に合った適切な寝具がない ☐ 季節に合った冷暖房器具が設置されていない ☐ 室内空気をかくはんする扇風機等が設置されていない ☐ 温度湿度計が設置されていない ☐ 掃除機、雑巾等の掃除用具が置かれていない (共用スペース) ☐ 下足のまま(下足を入れるビニール袋や靴箱の設置がない) ☐ ねずみ、虫類の侵入を防ぐ網戸が窓や入口に設置されていない ☐ 分別用蓋つきごみ箱がない ☐ トイレが不衛生である	・災害対策本部に対し必要な物品等の手配、配置を助言する。 ・3日～1週間以内に避難所に簡易ベッド、段ボールベッド、エアコン等、生活環境を整える備品が入ることが望ましい。	・被災当初から、感染症予防のため土足の管理、トイレの衛生管理について物品、備品等を整理する。
水の衛生	☐ 水を介した感染症が発生している ☐ 水道水の使用ができない ☐ 給水車等が水道水を供給していない ☐ 飲料用ペットボトル水が暗所で備蓄されていない ☐ ポリタンク等で保管した水に濁りや異物などがある ☐ 水の保管場所に直射日光が当たる ☐ 保管した水の遊離残留塩素濃度が、0.1mg/L以上検出されない ☐ 遊離残留塩素濃度の測定を、1日3回程度実施していない ☐ 井戸水を使用する場合、水質の安全が確認されていない ☐ 雑用水に使う水が確保できていない ☐ 雑用水に、井戸水、プール水、雨水、工業用水等を使っていない	・DPD試薬及び遊離残留塩素濃度測定器を、各避難所に配置する。	・水質の定期的な確認を行う。 ・給水車による水道水を毎日運搬することが可能な場合、ポリタンク等の中の水は、毎日入れ換えて使用すること。1日前的の水(1日以上保管)は、飲料水以外の用途で使用する。 ・ポリタンク等に保管する水を数日間使わざるをえない状況の場合、遊離残留塩素濃度の確認をする。塩素が検出されない場合はそのまま飲用せず、煮沸して飲用するか、煮沸が困難な場合は別の用途に使用する。 ・雑用水(清掃用、洗濯用等)は、大腸菌等に汚染されている場合は、使用を控える。
空気環境の衛生	☐ 温度が17～28℃の範囲にない ☐ 湿度が40～70%の範囲にない ☐ 二酸化炭素濃度が1,000ppm以下ではない ☐ 一酸化炭素濃度が10ppm以下ではない ☐ 浮遊粉じん量が0.15mg/m ³ 以下ではない ☐ 2時間に1回程度、5～10分間の換気が行われていない ☐ 温度湿度計や測定器による数値が記録されていない ☐ 夏季のエアコンの温度設定が、25℃～28℃に設定されていない	・保健所環境衛生監視員による避難所の空気環境測定チームをつくり、各避難所の空気環境を測る。 ・各避難所に、壁等にかける温度湿度測定器を配置する。 ・避難所内の中央や端など、避難所運営担当者が毎日定期的に測ることができる温度湿度計を配置する。	・空気環境の測定と評価を実施する。 ・室内が密集した状況では、二酸化炭素の濃度が上昇するので、換気に注意する。 ・開放型石油ストーブが不完全燃焼を起こすと、一酸化炭素が発生し生命への影響があるので、換気する。 ・日常の温度、湿度の測定及び記録を、避難所運営担当者等が行うよう指導する。

	チェック項目	保健衛生部局・保健所本部における対策の立案	保健指導
トイレの衛生	☐ トイレの窓に網戸が設置されていない ☐ トイレ内が清潔に保たれていない ☐ トイレットペーパーが十分に用意されていない ☐ 手洗い場に、石けん、消毒剤などが十分に供給されていない ☐ 最低、午前1回、午後1回、夕方1回の清掃・消毒が実施されていない ☐ 清掃・消毒の実施者、実施方法等の記録がつけられていない ☐ トイレの清掃当番が決められていない ☐ トイレに啓発用ポスターが掲示されていない	・災害対策本部に対して、必要な備品等の配置を助言する。 ・災害対策本部に対して、各避難所へのトイレ清掃ボランティアの派遣等を助言する。	・継続的な衛生維持をするため、生活者やボランティア等によるトイレの清掃・消毒の実施が望ましい。 ・生活者や清掃ボランティア等が清掃・消毒方法に慣れない場合、望ましい方法の見本を示す。 ・午前1回、午後1回、夕方1回の清掃・消毒を実施する。 ・トイレの汚れが目立つようならば、清掃・消毒回数を増すことを検討する。
ごみの管理	☐ し尿ごみの保管が適切でない (蓋つき容器に保管する、屋外軒下にブルーシート等で覆って保管する、土を掘ってブルーシートを張り土壌中に一時保管することが適切) ☐ 蓋つき容器が設置されていない ☐ ごみの分別や種類が明示されていない ☐ ごみが容器からあふれている ☐ ごみ容器が、玄関の脇や廊下などの適切な場所に置かれていない ☐ ごみ容器にハエ等虫が飛んでいる ☐ ごみが定期的に収集、処分されていない	・災害対策本部に対して、必要な備品等の配置を助言する。 ・災害対策本部に対して、定期的なごみ収集を助言する。	・ごみは分別収集にする。 ・ごみが定期的に収集されているか、避難所運営担当者に確認する。 ・ごみ収集がない場合、密閉された倉庫内や屋外軒下の容器内で、拡散しないよう適切な保管状態を確認する。 ・し尿ごみの保管がされる場合、ハエの発生等に注意し、保管が長引くときは、ごみ周囲に次亜塩素酸ナトリウム液など消毒剤を散布することを検討する。 ・ごみの害虫対策を指導する。
寝具の管理	☐ 咳やかゆみなどの有症状者がいる ☐ 室内に、ほこりが落ちている ☐ 布団、マット類がよごれている ☐ 掃除機で定期的な室内清掃をしていない ☐ 布団、マット類の清掃を定期的にしていない ☐ 布団、マット類を定期的に干していない	・屋外に布団を干す時の必要物品(ブルーシート、パイプ椅子等)の配置を災害対策本部に助言する。	・ダニ、カビ等のアレルギーを低減させるために換気や室内清掃を行う。 ・布団干しは、布団の乾燥だけではなく、布団をどかした寝食スペースを清掃する機会になる。ボランティアや避難者間が協力して、最低、週に1回の布団干しを心がける。 ・月に1回、生活スペースの全ての物を片づけての大掃除を実施することを助言する。

	チェック項目	保健衛生部局・保健所本部における対策の立案	保健指導
ねずみ、害虫の対策	☐ 避難所内・避難所周囲に、蚊、ハエ、ねずみ等がいる ☐ 避難所まわりに、蚊の発生源の水たまりをつくる古タイヤ、空き缶等がある ☐ 避難所まわりに、生ごみが置かれているところがある ☐ 避難者のなかに、蚊が媒介をするデング熱様症状(高熱・頭痛・筋肉痛・発疹等)を有している人がいる	・感染症発生のおそれがある場合、関係部局と協議し対応する。 ・場合により災害対策本部等での避難所の統一的な対応を実施することを検討する。	・避難所の中にハエ、ねずみ等が侵入しない構造になっているか確認する。 ・蚊、ハエ、ねずみ等駆除の必要性および対処方法を判断する。 ・蚊取り線香、スプレー式殺虫剤などの避難所内での使用は、避難者のなかに化学物質過敏症患者がいる可能性があるもので十分配慮する。
風呂の衛生	☐ 脱衣場の温度が、夏季に高温、冬季に低温である ☐ 脱衣場に温度計を設けていない ☐ 脱衣場の温度の記録が定期的にされていない ☐ 仮設浴場の水に水道水が使われていない ☐ 仮設浴場の浴槽水が毎日換水されていない ☐ 仮設浴場の浴槽水の消毒として塩素剤が用いられ、遊離残留塩素濃度が0.4mg/L以上に保たれていない ☐ 仮設浴場の浴槽水の水面がこぼれるくらいに、湯が供給されていない ☐ 仮設シャワーの水に水道水が使われていない ☐ ヒートショック等の急な体調変化に対応するため見守りが徹底されていない	・入浴施設のレジオネラ症対策について、現場の確認、指導・助言をする。 ・自衛隊の仮設浴場のほか、支援団体等から浴槽水の循環処理式の仮設浴場が設置されることがある。レジオネラ症対策として、毎日換水、遊離残留塩素濃度0.4mg/L以上の維持を徹底する必要がある。	・浴槽水の残留塩素濃度の測定及び衛生管理が行えるようにする。 ・多くの避難者が利用することから、毎日の水、塩素消毒の実施を指導する。
化学物質	☐ 化学物質過敏症を有する人がいる ☐ 化学物質過敏症の症状が出現している ☐ 室内で、芳香剤、消臭剤、殺虫剤、空間消毒剤等、化学物質過敏症患者に影響するものが使われている ☐ ニオイの強い洗剤・柔軟剤等、化学物質過敏症患者に影響するものが使われている	・各避難所に掲示する啓発用ポスター類を手配する。	・化学物質過敏症について、避難所内にポスター等で啓発する。 ・化学物質の除去など対応を行う。

	チェック項目	保健所本部における対策の立案	保健指導
悪臭、騒音	☐ オイがこもる場所がある ☐ 悪臭がただよっている ☐ オイの発生源の対処がされていない ☐ 定期的な換気がされていない ☐ 空気清浄機が置かれていない ☐ 騒音が発生している ☐ 騒音の発生源の対処がされていない ☐ 音を小さくするための対処がされていない	・通廃業務として悪臭や騒音問題を扱う環境保全課等の関係部局と協力して対応する。 ・空気清浄器を設置するなど場合によっては、災害対策本部等による避難所の統一的な対処を検討する。	・悪臭や騒音の発生源に対処する。 ・換気を指導する。 ・音を小さくするための対処を指導する。
食中毒の予防	☐ (1)食品等の取り扱い ☐ 保管場所が食品の設定温度(冷蔵、冷凍)に適さない ☐ 保管場所は塵埃などで汚染されている ☐ 保管場所は直射日光が当たった場所である ☐ 保管場所で食品相互の汚染がある (食品から漏出した液が他の食品に付着する、臭いの強い食品の臭いが他の食品に移行するなど) ☐ 提供する生鮮食品の消費期限や食品の賞味期限が切れている ☐ 食品の包装に穴や破損がある ☐ 配布された弁当など消費期限のある食品を配布後、消費期限を越えて、喫食している ☐ 当該避難所以外で調理された食品(ポランティアの炊き出し等)を、搬入後時間がたってから喫食している ☐ (2)炊き出し時の食品の取り扱い ☐ 調理場所は衛生的な場所でない ☐ 手袋を使用して調理していない ☐ 食材や調理器具は十分な洗浄ができない ☐ 生野菜類や果物を洗浄せずに喫食している ☐ 作業者の役割分担があいまい ☐ 食品、食材の保管場所が衛生的でない ☐ 食品、食材を2時間以上保管する場合10℃以下もしくは60℃以上になっている ☐ (3)炊き出し時の調理作業者 ☐ 過去5日前～現在で下痢や嘔吐等の消化器症状がある ☐ 過去5日前～現在で発熱や咳・鼻水・痰等がある ☐ 手指の傷、手荒れのまま手袋を着用していない ☐ 作業前、作業中の手指の洗浄、消毒が不十分である ☐ 調理者は作業用の清潔な作業着を着用していない	・避難所に食品専用の保管場所が確保できるように調整する。 ・冷蔵庫・冷凍庫を設置する。 ・専用の調理場所の確保ができるように調整する。 ・食品衛生監視員による避難所内の食品のチェックを行う。 ・避難所に配食業者からの搬入がある場合は、食品衛生部門に対して当該業者の監視指導を依頼する。監視の結果、健康被害につながる重大な問題が認められた場合は、代替の業者の調整を依頼する。	・避難所において冷蔵庫などによる温度管理が困難な場合は、提供された食品は速やかに喫食することを心掛け、食べきれなかった食品は廃棄するように指導する。 ・特に夏期は、リスクが高い高齢者、妊産婦、小児を対象とした生野菜類や果物の提供に注意する。 ・避難所内で調理作業を担当する人たちの健康チェックを行い、消化器症状等のある者は調理作業を行わないように指導する。 ・正しい手洗いの方法や、正しい手指の消毒方法の指導を行う。 ・避難所内で食品の衛生的な取り扱いが自主的に行われるように技術移転を行う。

	チェック項目	症状	保健衛生部局・保健所本部における対策の立案	保健指導
食中毒発生時の対応（被害の拡大防止）	☐ 下痢、発熱等の有症者がいる	・嘔気、嘔吐、腹痛、下痢等の消化器症状 ・軽い消化器症状を伴う発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などの風邪様症状（ノロウイルスなど）	・速やかに疫学調査を実施し原因食品及び病因物質の特定を急ぐ。 ・大規模な食中毒が疑われる場合や原因の特定に時間を要するおそれのある場合は、速やかに外部機関に応援要請を行う。 ・原因食品について配食業者からの弁当等が疑われる場合は、疑いの段階でも当該業者に当該食品の出荷停止を依頼し被害の拡大を防止する。 ・外部から搬入された食品又は避難所内で調理された食品が疑われる場合は、直ちに摂食を中止させ、残品がある場合は廃棄する。 ・避難所内で調理した食品が疑われる場合は、調理施設の環境整備と清掃消毒を行う。 ・症状が重篤化する可能性のある疾病の場合は緊急対応が可能な医療機関等との調整を行う。 ・人を介した感染拡大がある疾病の場合は、二次感染防止措置を十分行う。	・避難者における有症者の把握、経時的変化を観察する。 ・正しい吐物処理、下痢便処理の方法を指導する。 ・正しい手指の洗浄消毒方法を指導する。 ・有症者への支援、保健指導を行う。
	☐ 類似の消化器症状を呈する有症者が複数いる			
食中毒発生時の対応（被害の拡大防止）	☐ 複数の有症者の発症日は同一日又は近い日で発症している（一峰性）			
	☐ 有症者に共通する飲食物がある			
ペット対策	☐ 避難所にペットを受け入れるスペースが無い	・動物救護対策本部、地方獣医師会、動物愛護推進員等との連携を図り避難所で預かりが困難な動物の受け入れを行う。 ・避難所の動物の受け入れ時の健康状態のチェック、受け入れ後の健康管理を行うための体制作りを行う。 ・迷子動物の受付窓口及び広報を行うための体制作りを行う。 ・ペット救護ボランティア等の受け入れ、人材確保と各避難所への人材の適正配置を行う。	・人とペットのすみ分けを指導する（ペットの飼養場所のゾーニング）。 ・飼育場所の衛生状態の確認と衛生指導を行う。 ・飼い主に対する適正飼養の指導を行う。 ・飼い主が立ち上げる自主管理組織への支援を行う。 ・住民や飼い主からの相談対応と専門家（獣医師等）へのつなぎを行う。 ・動物ボランティアの活用と指導助言を行う。	
	☐ ペットの受け入れ体制が整っていない（受付時の帳票類、マイクロチップ読み取り機等が準備されていない）			
ペット対策	☐ 避難者とペットの避難所内でのすみ分け（ゾーニング）が出来ていない			
	☐ ペットの個体識別が不明である			
ペット対策	☐ ペットの飼い主がすぐわかるようになっていない			
	☐ ペットが避難所から逃走し、ヒトに対して危害を加える危険がある			
ペット対策	☐ ペットどうしで闘争する危険がある			
	☐ ペットの健康状態は良好としない（人又は他のペットに感染する疾患に罹患している可能性がある）			
ペット対策	☐ ペット用の飲料水・食料が確保されていない			
	☐ ペット用の排泄物処理用の物資が確保されていない			
ペット対策	☐ ペットの飼養に必要な物品が確保されていない			
	☐ 飼い主が飼養管理を行う自主管理組織が組織されていない			
ペット対策	☐ ペット支援ボランティアの窓口が設置されていない			

【栄養・食生活】

	チェック項目	症状	保健衛生部局・保健所本部における対策の立案	保健指導
食物アレルギー	☐ 食物アレルギーをもつ者がいる ☐ 提供する食事について、食物アレルギーの情報を提供していない ☐ 食物アレルギーに対応した食事を提供できていない	・皮膚症状(あかみ、じんましん、腫れ、かゆみ、湿疹) ・粘膜症状(目の充血・腫れ、かゆみ、涙、まぶたの腫れ、鼻水・鼻つまり、くしゃみ、口の中や唇、舌のかゆみ) ・呼吸器症状(喉のかゆみ、喉や胸が締めつけられる*声がかかづれる*、息苦しい*、咳*、唇や爪が青白い*) ・消化器症状(気持ちが悪いい、嘔吐*、腹痛*、下痢、血便) ・神経症状(頭痛、元気がない、ぐったりしている*、意識もろろ*、失禁*) ・循環器症状(血圧低下、脈が速い・不規則・触れにくい)*、手足が冷たい、顔色・唇・爪が青白い) *…緊急性が高いアレルギー症状	保健衛生部局・保健所本部における対策の立案	保健指導
栄養不足(栄養障害)	☐ 食事が不足している ☐ 食事回数が不足している ☐ 食事が偏っている(主食中心、おかずがない、野菜・果物が少ない) ☐ 摂食・嚥下に問題を抱えている ☐ 義歯をなくした、又は義歯が合わない	・体重減少 ・顔面(蒼白、ムーンフェイス、鼻唇の脂漏):低たんぱく、ビタミンB2欠乏、鉄欠乏 ・眼(角膜乾燥、ビトー斑点、角膜軟化症):ビタミンA欠乏 ・唇・口(口内炎、口角瘡、口角症):ビタミンB2欠乏 ・舌(水腫、鮮紅色舌、亀裂、舌乳頭萎縮):ビタミンB2欠乏、ナイアシン欠乏 ・歯肉(海綿状、出血、毛状乳頭の萎縮):ナイアシン欠乏、ビタミンC欠乏、鉄欠乏 ・皮膚(乾燥、点状出血、パラグラ、弾力消失):低栄養、低たんぱく質、ビタミンA欠乏、ナイアシン欠乏、ビタミンC欠乏 ・爪(匙形爪):鉄欠乏 ・分泌腺(甲状腺肥大):ヨウ素欠乏	保健衛生部局・保健所本部における対策の立案	保健指導

【歯科口腔保健】

	チェック項目	保健衛生部局・保健所本部における対策の立案	保健指導
歯科保健・医療対策	☐ 口腔衛生や口腔機能の低下に配慮が必要な対象者がいる(配慮が必要な者:乳幼児・妊婦・後期高齢者・障害児者・要介護者・糖尿病等の有病者) ☐ 飲料水・生活用水・洗口場所が不十分である ☐ 歯ブラシ・歯磨き剤、コップ、義歯洗浄剤、義歯ケースなど資機材が不足している ☐ 口腔清掃状況が不十分である ☐ 歯痛や口内炎を訴える者、食事摂取が不自由な者がいる ☐ 歯科診療所、巡回歯科チームなどの歯科保健医療体制がない	保健衛生部局・保健所本部における対策の立案	保健指導

・歯科支援チームと連携し活動を行う

【こころのケア】

	チェック項目	症状	保健衛生部局・保健所本部における対策の立案	保健指導
P T S D	☐ 人的被害の大きい災害である ☐ 被災により本人もしくは身近な人の生死に関わるような危険な体験をしている ☐ 被災から1か月程度が経過している ☐ 被災後の不安や生活上の困難に対する支援を受けることが困難な状況にある ☐ 災害の前に事故で家族を失うなどのトラウマ体験があった	・過覚醒：常に警戒した態度を取る。些細な物音、気配にもハッとする ・再体験（想起）：悲惨な情景を度々ありと思い出す。悲惨な情景を夢に見る ・回避・麻痺：災害を連想させる場所、物、人、話題を避けようとする。感情が湧かず、何事にも興味が持てない ・抑うつ：憂うつな気分・絶望感、無力感、孤立感・自分を責める(survivor's guilt) ・その他：睡眠障害・アルコール摂取量が増える・他者を責める ・これらの症状が1か月以上持続し、苦痛感や社会生活・日常生活に支障をきたしている	・精神保健福祉センター等と連携し活動を行う	
飲 酒 問 題	☐ 被災前から飲酒による問題があった ☐ 過度のストレスに曝されている状況にある ☐ 避難所へのアルコールの持ち込みや飲酒がある ☐ 酒量の増加、または、いつも飲まないのに飲むようになった ☐ 眠るために飲酒をしている ☐ うさづめ、手持無沙汰等から飲酒をしている ☐ 飲酒による周囲とのトラブルや問題行動がある	・飲酒時の暴言等の問題行動 ・酔いがさめた時の気分の落ち込みや不安感がある ・不眠である	・精神保健福祉センター等と連携し活動を行う	
睡 眠 障 害	☐ 大きな精神的ストレスを経験している ☐ 避難所での生活など、生活環境が変化している ☐ 被災前から生活上の問題や身体的、精神的疾患、不眠症状があった ☐ うつ症状、認知機能等の精神的問題がある ☐ 身体的疾患や身体症状等の不調がある ☐ 飲酒している	・寝つきが悪い ・悪夢をみる ・眠りが何度も中断し目が覚める ・熟睡感がない ・早朝に目が覚めてしまいその後眠れない ・疲れが取れない	・精神保健福祉センター等と連携し活動を行う	
バ ー ン ア ウ ト	☐ 絶え間ない過度のストレス状況に曝されている状況にある ☐ 没頭して取り組んでいることに終結や成果、意識が覚出しにくい状況にある ☐ 心理的な葛藤が発生しやすい状況下にある ☐ 怒りなど強い感情を向けられることがある ☐ 心身の休養が十分とれていない	・朝起きられない ・職場に行きたくない ・仕事の手につかない ・アルコールの量が増える ・イライラが募る ・対人関係を選けるようになる ・身体的な体調不良 ・悲観的になる	・精神保健福祉センター等と連携し活動を行う	

基本情報及び現地の情報概況(○区)

作成 年 月 日 時点

保健センター名			住所			
総括部署		電話		FAX		
担当者名		E-mail				
地域概況(区内) 人口動態 地理・地勢・気候 交通機関 主な産業 その他	総人口 高齢化率 出生率	人 男性 % 世帯数 (人口千対)	人 女性 世帯	人	地図貼付	
保健師所属部署名	(総括部署)					
職員数 (稼働率)	()	()	()	()	()	()
区内地区	区	〇〇地区				
人口						
世帯数						
高齢化率(%)						
出生率						
職員数						
被 死者数 人						
害 避難者数人						
避難所設置数(予定)						
救護所設置数(予定)						
DHEAT 応援派遣 拠点に○						

【応援派遣拠点地域の状況】

◆ライフライン(各ライフラインが通じている場合は○、不通は×、状況欄に情報を付記)

事前情報+現地でロジスティクスがチェック

	状況	状況欄
電気		
ガス		
水道		
交通 電車・バス・車		
固定電話、携帯電話等通信		

◆ライフライン(各ライフラインが通じている場合は○、不通は×、状況欄に情報を付記)

事前情報+現地でロジスティクスがチェック

	状況	状況欄
電気		
ガス		
水道		
交通 電車・バス・車 道路状況		
固定電話、携帯電話等通信		

◆基本施設

	状況	状況欄
1 食糧製造施設	有 無	
稼働施設数	箇所	
主な稼働施設内容	種類・製造量(食分/日)等を記載	
2 特定給食施設	有 無	
主な施設		
稼働施設数	箇所	
3 水施設の稼働状況		
4 清掃工場の稼働状況		
5 廃棄物の収集状況		

※有無はどちらかに○、3.4.5 は稼働は○、稼働していない場合は×、一部稼働は△として状況欄に記入

◆稼働医療機関(搬送可能な近隣施設を含む)

医療機関名	診療科	所在地	連絡先	担当者名	備考

◆稼働施設、入所施設(搬送可能な近隣施設を含む)事前情報+現地でロジスティクスがチェック

施設名	支援対象	所在地	連絡先	担当者名	備考

《市内および区内関係機関連絡先》

〇区役所 所在地

〇〇区役所		電話番号	FAX	メール
〇〇課	総務部門			
〇〇課	医療部門			
	生活衛生			
	食品衛生			
	健康づくり			
	ほか			

関係機関	所在地	電話番号	FAX メール
〇〇病院			
〇〇市医師会			
〇〇市歯科医師会			
〇〇市薬剤師会			
〇〇県看護協会			
その他			

《管内地図・ハザードマップ》

《危機管理に関する指揮命令系統図・保健医療調整本部組織図》

《情報収集に関する各種帳票一覧》

《避難所、避難者情報》

全体オリエンテーション

1 被害状況

- ・人的・物的被害状況
- ・ライフラインの復旧状況
- ・公共交通機関の状況
- ・避難所開設の状況

2 活動のための準備

- ・緊急連絡先(氏名、所属、携帯電話番号等)をお知らせください。
- ・物品はお持ちいただいた物を優先して使用してください。活動で不足する者がある場合は相談してください。
- ・前任のチームがいる場合は、活動内容や避難者の状況について引継ぎを受けてください。

3 毎日のミーティング

- ・ 時 分 場所
- ・保健活動に関する情報交換・課題の共有、被害状況等の最新情報の提供を行います。
- ・各避難所等の活動拠点チームから1名は参加してください。

4 担当者連絡先

- ・札幌市〇区役所健康・子ども課健やか推進係 担当〇〇 連絡先〇〇〇
- ・札幌市〇区役所〇〇〇課〇〇係 担当〇〇 連絡先〇〇〇

避難所活動の説明

1 避難所情報

〇〇〇避難所（住所 ）

運営主体：

避難状況：

重点課題：

2 活動のための準備

- ・避難所に到着後、避難所班等から可能な範囲で一日の流れや避難所状況を確認してください。
- ・活動に必要なスペースを確保してください。（食事、休憩場所等も含めて避難所班と調整してください）

3 活動内容

・〇〇年〇月〇日から〇月〇日まで（〇時〇〇分～〇時〇〇分）

① 避難者の健康確認・健康相談

- ・避難者の健康管理及び健康支援
- ・随時、健康相談を実施してください。要配慮者は避難者名簿の要配慮者欄に該当している者に対して、要配慮者身体状況等情報シートを用いて聞き取りを行い、必要に応じて二次避難所、福祉避難スペースへの移動を調整してください。継続支援が必要な人には、個別支援を行い、必要に応じて医療救護班や他医療職チーム等につないでください。
- ・健康教育の実施（健康教育パンフレット等を活用し実施）
- ・保健医療福祉に関する情報提供
- ・避難所の衛生管理及び環境整備
- ・避難所班との連携

4 記録・報告

記録様式		提出時期
様式 B	避難所日報	巡回時毎日
様式 D	巡回健康相談者一覧リスト	巡回時毎日
様式 E	健康相談表	継続支援対象者巡回時毎日
様式 G	健康課題チェックリスト	巡回時毎日
様式 17	要配慮者身体状況等情報シート	二次避難所移送者のスクリーニング時

地域巡回活動の説明

1 活動地区・世帯

○区○○地区

活動地区までは○○○で移動してください。

集合場所は○○○○(住所)です。

2 活動内容

- ・活動目的は○○○……です。
- ・巡回健康相談者一覧リストを用いて家族状況、身体状況、受診状況、困りごとの有無等の聞き取りを行ってください。継続支援が必要な人には健康相談表を用いて個別支援を行い、必要に応じて医療救護班や他医療職チーム等につないでください。
- ・健康教育の実施(健康教育パンフレット等を活用し実施)
- ・保健医療福祉に関する情報提供
- ・不在時は○○○としてください。
- ・活動内容の集約は○○○とします。

3 記録・報告

記録様式		提出時期
様式 D	巡回健康相談者一覧リスト	巡回時毎日
様式 E	健康相談表	継続支援対象者巡回時毎日
様式 G	健康課題チェックリスト	巡回時毎日

応援派遣保健師のみなさまへ

災害にかかる保健活動にご協力をいただきありがとうございます。

被災地の保健師をはじめとする現地職員と連携して、被災地の保健活動を推進していただくために、応援派遣保健師としての姿勢・心構えとして、留意いただきたい事項を、以下に整理しました。

1. 被災自治体の意向や大切にしたい事柄を踏まえて活動する
 - －被災地の保健活動の主体は、現地の自治体です。現地の方針や考えは、状況によって、把握しにくい場合もありますが、「現地の意向や大切にしたいことは何か」に常に注意を払い、支援者としての判断や行動に役立てるようにしてください。
2. 被災自治体の地域特性や組織体制の理解のもとに活動する
 - －応援派遣者は、現地自治体と共同し、被災地の保健活動の一部を担います。被災地域の慣習や価値観、自治体内の組織、指揮命令系統、連携体制、協議や相談の方法などを理解し、行動をとるようにしてください。
3. 被災地の職員に寄り添った配慮ある行動を常に心がける
 - －現地職員も被災者です。また現地職員は被災地の最前線で持続的に保健活動の責任を担う立場にあります。現地職員の置かれた立場や気持ち、心身の状況を思いやり、配慮のある言葉づかいや態度をとり、現地職員一人ひとりに対しても支援することを意識してください。
4. 指示待ちではなく、役割の中で、保健師として成すべきことを考え、現地の了解を得ながら、自立して活動を行う
 - －被災自治体の意向に沿った活動をすることが原則ですが、被災自治体の状況によっては応援派遣者に担って欲しい業務について細かく指示したり依頼したりできないこともあります。そのような場合には、「何でもするので教えてください」や「何をやったらよいですか」と現地職員に指示を仰ぐのではなく、応援派遣者として与えられた役割の中で目的を理解し、必要な活動を考えて行動してください。
5. 一方的な提案や指摘ではなく、現地職員と共に具体的に検討し実行する
 - －提案や指摘は悪いことではなく、被災地の保健活動の推進に必要と思うことは、現地職員に伝える必要があります。しかし、決めつけたような言い方や要求を押し付けるような態度は、現地職員を疲弊させます。平時のときよりも慎重に言葉を用いるようにしてください。また指摘や提案の時期についても、今本当に必要なのかという点から考えてください。さらに、「このようにしてみたいと思うがどうだろうか」のように、現状が良くなるために何が必要で何ができるだろうか、という考えを主体的にもち、具体的に検討し実行するところまで現地職員と共同する意志と行動を示してください。
6. 応援派遣者および応援派遣チームとしての責任ある行動と引継ぎによる継続的かつ

計画的な課題解決を志向する

- － 応援派遣者の役割は、支援によって被災地の保健活動を推進することにあります。応援派遣者個人や所属組織の利益のために活動するものではありません。現地の状況や健康課題、現地で提供された資料類は、応援派遣チーム内に引継ぎ、継続的な活動に役立ててください。派遣期間中の活動記録は、現地自治体において課題の検討や計画策定に役立ててもらうための記録や資料として現地に残してください。

7. 被災地では住民に対する直接的な支援のみでなく、間接的な支援を担う場合もあることを認識する

- － 被災地の保健活動においては、避難所等での住民への直接的な支援だけでなく、情報収集分析、統計処理、関係機関との調整等の間接的な支援も必要になる場合があります。間接的な支援も被災地に貢献する活動であり、被災地支援におけるその意味を理解して担ってください。

8. 派遣期間中は、チームワーク、協調性を大切にする

- － 派遣期間中は、実施している活動についてチーム内でコミュニケーションを十分にとり、お互いに助け合うという協調性をもって行動してください。

9. 保健師としての基本能力を駆使し、災害支援経験や研修受講などの被災地支援の知識・技術も踏まえて活動する

- － 応援派遣者は、災害という非常事態のなかで、不慣れな土地及び環境下で活動することになりますが、対人支援及び地域支援の専門職としての基本能力を最大に駆使して活動してください。また、災害支援経験や研修受講などから得た知識・技術を踏まえて活動してください。

10. 派遣期間中は、健康安全管理に留意する

- － 派遣期間中は、慣れない環境下での連続業務にかかわることで、予想以上に心身に負担がかかるものです。派遣期間中は健康安全管理に留意するとともに、派遣終了後も体調管理に努めてください。

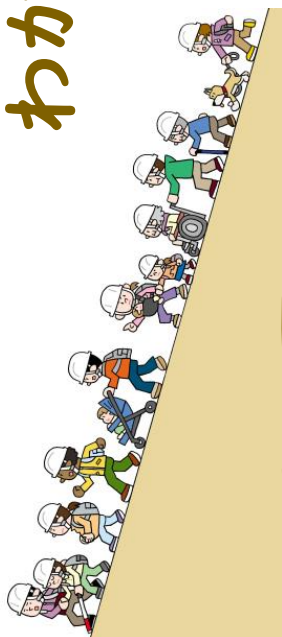
R7保健師継続支援ケース台帳(A区A地区)

見本(西課統合)

地区名	A地区
担当者	札北 花子(高齢)／北海 花男(母子)
更新	R7.5月時点

117

わが家のひなんシート



作成日 年 月 日

氏名

最寄りの避難所

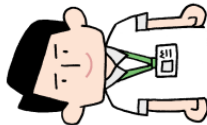


配慮してほしいこと

避難方法

困ったときに連絡する人

家族の連絡先



避難所に持っていくもの



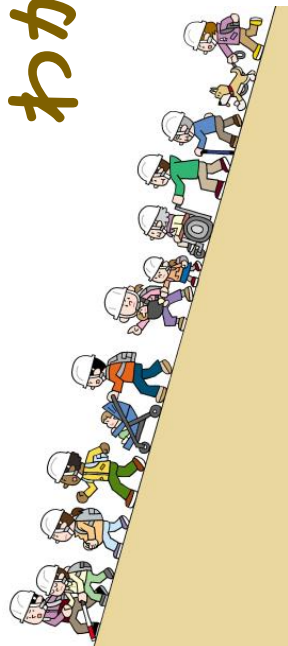
その他

見やすい場所（例 冷蔵庫等）に保管しよう

わが家のひなシート（例）

作成日 令和6年 10月 25日

氏名 札幌 花子



最寄りの避難所

A中学校

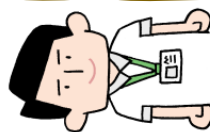


配慮してほしいこと

困りごとをうまく伝えるのが難しい

避難方法

同居の息子（太郎）と一緒に避難する



困ったときに連絡する人

ケアマネージャーの佐藤さん

090-0000-0000

家族の連絡先

息子（剛史） 090-0000-0000

避難所に持っていくもの

糖尿病の薬を持っていく



その他

同居の息子は札幌市役所に勤めている。

見やすい場所（例 冷蔵庫等）に保管しよう